

シリーズ
学校・園では今
17

敬和小学校の取り組み ～インターネットでのやりとりについて考えよう～

インターネットは、情報の収集や発信など学習の分野でも幅広く利用されています。一方で、インターネットでのメールやSNS、掲示板などを使ったいじめが、子どもたちを傷つけ、場合によっては命を奪ってしまうこともあります。また、インターネット上に氾濫している差別的な情報をうのみにしてしまうといった現状もあります。今回の「シリーズ学校・園では今」では敬和小学校の取り組みについて紹介します。

敬和小学校6年生の授業から

「インターネットでのやりとりについて考えよう」をテーマに、子どもたちの中で実際に起こりそうな2つの場面を劇化した教材を使い、自分の経験などを重ねながら、考えたり思ったりしたことを出し合う授業が進められました。



～子どもたちから出された意見や思い～

便利な面

- ▶ すぐに情報の交換ができる
- ▶ お互いが離れていてもやりとりができる
- ▶ 便利で楽しい

一方で

- ▶ 自分の気持ちを正しく伝えることが難しい
- ▶ 相手の表情が見えないから、気持ちを十分に受け取ることができない
- ▶ 相手が目の前にいたら言えないようなひどいことも言ってしまう恐れがある

SNSでの仲間外しの場面の教材では

- ▶ 本人が知らない間に仲間外れにされていて、それを知ったらとても傷つくだろう
- ▶ 仲間外れをしている人は軽い気持ちかもしれない。でも、されている方は重く感じていると思う
- ▶ 教材の登場人物の中にも、仲間外れにされている人を心配している人もいる。でも、同じ目に遭うことが怖くていじめていると思う

実際の経験からの意見も

- ▶ 同じようにSNSを使った仲間外しがないか不安に感じるときがある
- ▶ 相手を傷つけるような言葉を書き込んでけんかになっていた

授業の感想

- ▶ 自分たちの身の回りで起こったことも、自分のこととして考えたい
- ▶ 相手がどう感じるかを考えてメールを送るようになりたい



子どもたちの自己責任？

子どもたちを取り巻くネット環境について、「使う子どもの自己責任」とするのではなく、子どもたちとともに、学校や家庭、地域で私たち大人が自分たちの問題として、ネットモラルについて考えることが必要ではないでしょうか。